

# VB.NET

コンポーネント活用講座  
～ 教養課程 ～

# スモールパーツ プログラミング



第26回

小森 大輔 KOMORI, Daisuke

## CommonDialogクラスの コントロール—Part2—

Small Parts Programming

### Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

### Level



### Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥SMALLディレクトリに収録しています。

¥OPENFILEDIALOG01  
ファイル選択ダイアログボックスの使用方法

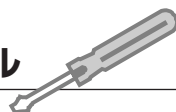
¥OPENFILEDIALOG02  
ReadOnlyChecked プロパティとOpenFile メソッドの使用方法

¥OPENFILEDIALOG03  
FileOk イベントの使用方法

¥SAVEFILEDIALOG01  
名前を付けて保存ダイアログボックスの使用方法

¥FOLDERBROWSERDIALOG01  
フォルダの参照ダイアログボックスの使用方法

### ファイル関連の クラスと コントロール

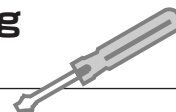


本連載は、Visual Basic .NET (以下VB.NET) の標準コントロールにスポットを当て、とことん使い込んで、その機能や役割を探ってゆきます。

前回は、CommonDialogクラスから派生するコントロールの中から、ColorDialogコントロールとFontDialogコントロールを取り上げ、

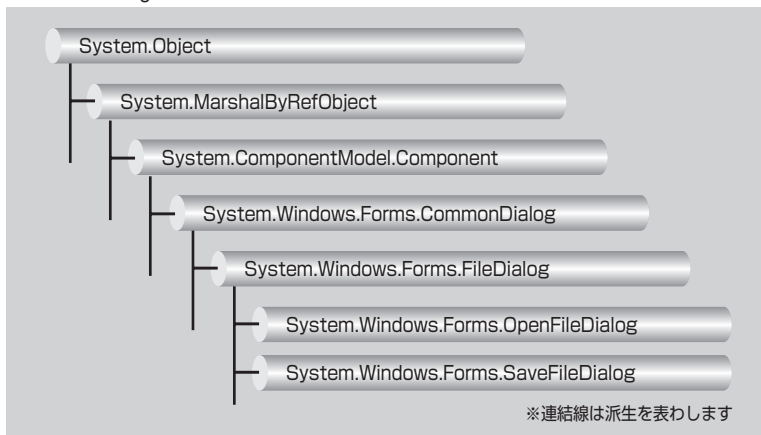
その使用方法について詳しく見てみました。今回は同じくCommonDialogクラスを継承する、「FileDialogクラス」と「FolderBrowserDialogコントロール」について見ていきたいと思っています。

### FileDialog クラス



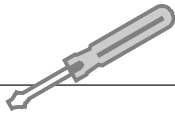
FileDialogクラスは、CommonDialogクラスと同じようにMustInherit宣言された抽象クラスなので、

図1：FileDialogクラス階層図



このクラス自体をインスタンス化することはできません。FileDialogクラスには、図1のように、「OpenFileDialog」「SaveFileDialog」というファイルを選択する2つの派生クラスがあり、実際に使用する際にはこれらの派生クラスを使用することになります。

## OpenFileDialog コントロール



FileDialogクラスの中の2つの派生クラスは、Visual Studio .NETの標準コントロールとして提供されています。はじめにOpenFileDialogコントロールを取り上げて基本的な使用方法を見てみましょう。

OpenFileDialogコントロールは、その名のとおり「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示します。リスト1はこのコントロールの基本的な使用方法です。ShowDialogメソッドでダイアログボックスを表示し、戻り値のDialogResult列挙体の値が“DialogResult.OK”の場合には、ユーザーによってファイルが選択され [OK] ボタンが押されたと判断し、選択されたファイル名をFileNameプロパティから取得して処理を行ないます。

ShowDialog後に参照するプロパティが違うだけで、前回紹介したColorDialogコントロールなどと何ら変わるところはありません。

### OpenFileDialogのプロパティ

OpenFileDialogコントロールには、FileDialogクラスから継承されたプロパティ、あるいは独自に実装されて

リスト1：OpenFileDialogコントロールの使用

```
Private Sub Form1_Click(ByVal sender As Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Click
    With OpenFileDialog1
        Dim dr As DialogResult = .ShowDialog()

        If dr = DialogResult.OK Then
            Debug.WriteLine(FileName)
        End If

        End With
    End Sub
```

いるプロパティが多数存在します。ここでは、これらの中から代表的なプロパティのみを見ていくことにします。

### Filterプロパティ、FilterIndexプロパティ

リスト1で表示されたファイル選択ダイアログボックスでは、指定したフォルダ内のすべてのファイルが表示されます。たとえば、画像処理を行なうアプリケーションの「ファイルを開く」ダイアログボックスで、画像ファイルのみを指定して欲しい場合など、表示されたすべてのファイルの中から画像ファイルのみをユーザーに選択してもらおうというのは、あまり親切なUIとは言えませんね。

Filterプロパティは、ダイアログボックスに表示されるファイルを、指定した拡張子のものだけに制限するプロパティです。このプロパティにフィルター文字列を設定すると、ダイアログボックスの「ファイルの種類」コンボボックスにファイルの種類が表示されます。たとえば、このプロパティに画像ファイルの拡張子を指定したフィルター文字列を設定すれば、そのファイルのみが表示され、ユーザーはファイルの指定がしやすくなります(図2)。

指定するフィルター文字列はリスト2のように、

"[ファイルの説明1];[拡張子1];[拡張子2];[ファイルの説明2];[拡張子3]"

という形式で、ファイルの説明とその拡張子のセットを縦棒 (|) で区切り、複数の拡張子をひとつの説明に設定するには、それらをセミコロン (;) で区切って指定します。

図2：Filterプロパティ設定後のダイアログボックスの表示

